

平成28年度事務事業評価シート						取組みコード	52221
区分	補助金・交付金		担当課	商工観光課	作成日	平成28年5月13日	
事業名	愛川にぎわいマルシェ開催経費補助金		開始年度	平成25年度	予算科目	6.1.2.6.1	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第5部 多彩な産業の活力あるまちづくり	章	第2章 活力と魅力ある商工業の振興
節	第2節 商業・サービス業の振興	基本施策	2 商業経営基盤の強化
取組みの基本方向 (1)愛甲商工会との連携により、経営の改善や合理化、サービスの向上を促進します。			
根拠法令等	—		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	地域商業の振興と活性化を図ることを目的に、消費の町外流失、大型店の影響、後継者不足など、厳しい環境におかれている、地域商業者(小規模小売店舗)を愛甲商工会と連携して支援する。		
内容・方法 (何を行っているのか)	町内の小規模小売店等に、自店商品の販売する機会を設定し、町商業の魅力を高めるとともに、新規顧客の獲得と販路拡大を図るため、愛甲商工会の地域活性化委員会が主体となって開催する。朝市(マルシェ)に必要な経費の一部を補助している。 なお、朝市(マルシェ)については、例年4月から12月の毎月第1日曜日(全9回)に、健康プラザ前広場で開催しており、平成28年度は、5月3日開催の「農林まつり」に出店、また、「勤労祭野外フェスティバル」に出店予定。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名		平成21年度	平成28年度				
		『商業・サービス業の振興』について「満足」と感じる住民の割合		33.1%	38.0%				
		卸売・小売業の商品販売額		554億円 (平成19年度)	580億円				
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果				魅力ある商品を提供する町内小売店舗の周知を図りながら、新規顧客の獲得と販路拡大など、経営の改善・合理化に努め、地域商業の振興発展に寄与する。					
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)		増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
朝市(マルシェ)来場者数		増	来場者数を指標とし、周知が図られた度合いを測定する。 計画値は月400人来場×9ヶ月(4月～12月開催)とする。	計画値		3,600.0	3,600.0	3,600.0	
				実績値	2,600.0	4,280.0	3,930.0		
				達成度※自動計算		118.9	109.2	0.0	
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動			本事業は補助金の給付のみであるため、町の活動としては、申請書の受理、報告書の審査等だけであることから、活動指標の設定は行わない。						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)		増減	指標の説明	項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
—			—	計画値					
				実績値					
				達成度※自動計算		計測不能	計測不能	計測不能	

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成25年度)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算見込)	平成28年度(予算)
(A) 事業費(円)		100,000	300,000	300,000	300,000
(B) 概算職員数(人)		0.008	0.008	0.008	0.008
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		66,400	66,400	66,400	66,400
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		166,400	366,400	366,400	366,400
単位当たりコスト※自動計算		64.0	85.6	93.2	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		166,400	366,400	366,400

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない		
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な不可欠な事業である		
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成27年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増＞成果アップ	C
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

基準年度と比較して、事業費(町補助金)が増加しているのは、本事業を開始した平成25年度に愛甲商工会が交付を受けていた県補助金が、平成26年度以降は減額(平成28年度で補助金終了予定)となったことから、商工会の負担軽減(要望あり)を図るため、町補助金を増額している。なお、平成26年度以降の事業経費は、同程度で推移している。(平成27年度事業経費の負担割合は、町27.8%、商工会57.2%、出店者15.0%)

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	町商業者(小規模小売店舗等)の魅力ある商品等を生かした朝市を開催し、地域商業の振興発展に寄与する取り組みに対して、引き続き支援していく必要がある。
今後の方向性	本事業は、町内の小規模小売店等に、自店商品の販売する機会を設定し、町商業の魅力を高めるとともに、新規顧客の獲得と販路拡大を図っている。また、本事業に参加する「愛川ブランド」認定事業者がブランド認定品の販売も行っており、こうした地域商業の振興とブランドのPRに取り組んでいる町商業者の支援を継続していく必要がある。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	現状維持
今後の方向性に係る意見等	効率性の判定がCとなっているのは、県補助の終了に伴い町補助金を増加したことによるものであるため、所管課の方向性のとおり現状維持とするが、開始から一定期間が経過しているため、今後、自立を促していく必要がある。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施するが、事業開始から一定期間が経過していることを踏まえ、今後における本事業の支援の在り方について、関係団体と協議していきたい。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	現状維持
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施するとともに、事業開始から一定期間が経過していることを踏まえ、今後の町の支援のあり方について、関係団体と協議を行う。